

外部環境

経済・観光・文化のグローバル化

FTA・TPP などによる経済圏の広域化、インターネットや SNS の普及など ICT 技術の普及、LCC 等による国際航空網の拡充などにより、経済や観光、文化のグローバル化が進行している。

人口変動

世界の人口が増加する中、東アジア地域は人口減少が見込まれている。札幌では、少子高齢化がこれまで以上に進み、国内市場が小さくなる中、新たなマーケットの開拓が必要であると同時に、製造業、サービス業、の担い手が将来不足することが懸念されている。

地球規模問題

環境問題やエネルギー、防災、食料供給等、国境を越えて協力し解決すべき課題が山積している。

札幌の国際化の状況

外国人の状況

・外国人登録者数は約 9,500 人。総人口に占める割合は政令指定都市間で比較すると 0.5%と最も低い。
・留学生の比率が高い。

経済・観光

・北海道の輸出額は 3,408 億円、輸入額は 1 兆 1,512 億円(2010 年)。
・札幌市の外国人宿泊者数は 79 万人。北海道は 206 万人で全国第 4 位(2010 年)。
・国際会議開催数は全国第 7 位(2009 年)。

運輸・交通

・航空路は海外 9 都市へ直行便運航。
・航路は小樽港、石狩湾新港、苫小牧港で 8 航路。

強み

・海外での高い知名度
・特徴的な積雪寒冷地の都市
・国際的な文化・スポーツイベントなどの実績
・外国人に友好的な市民感情

弱み

・多文化共生に向けた経験の不足
・観光の受け入れ環境の脆弱さ
・経済面での海外展開の不足

「札幌市国際化推進プラン」(H14~23)の実績と課題

<実績>

○姉妹都市交流や冬の都市市長会等を通じてネットワークを構築し、世界の都市と活発に交流してきた。
○積雪寒冷など札幌の技術を世界に伝え、国際協力に貢献してきた。
○観光都市として海外から認知され、多くの外国人観光客が来札している。

<課題>

- 経済分野での国際化
- 外国人の居住が少ないことから、まちづくりへの参加の機会が十分に確保されていない。

論点

「国際都市」と呼ばれる都市は、世界的に見て優位な特徴を持っている。(別紙参照)

1 札幌が「国際都市」を目指す意味とは？

今後のまちづくりの中で、札幌が「国際都市」を目指す意味は何か。

<参考>「札幌市まちづくり戦略ビジョン」(策定中)での認識

- ・これまでの都市像「北方圏の拠点都市」を踏まえ、国際都市の視点は残し、現代に合う表現へ。
- ・基本目標(素案)では、「多文化共生の地域づくり」、「経済のグローバル化」を記載。

2 札幌が目指しうる「国際都市」像は？

国際化を目指すとするれば、札幌・北海道の資源や現状を踏まえ、可能な「国際都市」像とはどのようなものか。また、国際都市としての指標はどのようなものが考えられるか。

3 札幌が「国際都市」となるためには？

目指す「国際都市像」へ近づくために、札幌、北海道のどのような資源をどう活用すべきか。また、新たに何が必要となるか。

「札幌市国際戦略プラン」の施策展開イメージ(案)

4 つの施策の柱に基づき展開し、相乗効果を上げる。

ターゲット地域に応じた外貨の獲得、経済・観光のグローバル化を図るとともに、将来につながる経済交流を展開し、産業振興につなげる。

[施策イメージ] 海外からの観光客・企業誘致、札幌企業のグローバル化・販路拡大、航空定期便の拡充など

札幌経済・観光のグローバル化の推進

多様かつ積極的なシティプロモート、情報発信を行い、札幌の認知度・ブランド力を高め世界でのプレゼンスを向上させる。

海外シティプロモート・PRの展開

[施策イメージ] 海外シティプロモーション、国際機関・国際会議誘致、国際協力、ICT を活用した海外向け情報発信、など

異文化理解をすすめる、グローバルに考え、札幌のまちづくりに貢献するひとづくりを行う。

グローバル人材の育成

[施策イメージ] 外国語教育の推進、青少年の異文化理解教育、市民の多文化共生意識の醸成、人権・環境教育の推進、外国籍人材活用の促進、など

多文化共生社会の推進

札幌に居住する外国人市民が住みやすさを感じ、地域社会の構成員としてまちづくりに参加する多文化共生社会を実現する。

[施策イメージ] 多言語による情報提供、外国人の生活支援、外国人に寛容な地域づくり、など